

茨城大学教育学部附属特別支援学校主催

令和6年度 公開研究会

February 12, 2025

充実した時間が 熱中する姿が
子供たちの豊かな未来をつくる。

私たちにできること。

子供たちとできること。

楽しく学びのある『たのまな』の実現



研究主題

子供たちの内面や生活を『豊か』にする
体育/保健体育科の授業づくり



茨城大学教育学部
附属特別支援学校

近年の研究の流れ

2016～ アクティブラーニング時代の授業づくり

2020～ 自分らしく未来を生きる力を育む授業づくり

2023～ 子供たちの内面を『豊か』にする音楽・図画工作/ 美術・体育/保健体育の授業づくり

自分らしく
未来を生きる、
豊かに生きるために、
音・美・体から
始めよう。

- ・刻々と変わる予測が難しい社会で、自分らしく、豊かに生きるため
どんな学びを提供できるかを考え昨年度から教育課程を更新。
- ・音楽・図画工作/美術・体育/保健体育を重視した教育課程に合わせた研究をスタート。

・自分の「思い」を純粹に直感的に表現できる音・美・体ならば、
内面の変化を捉えやすい。

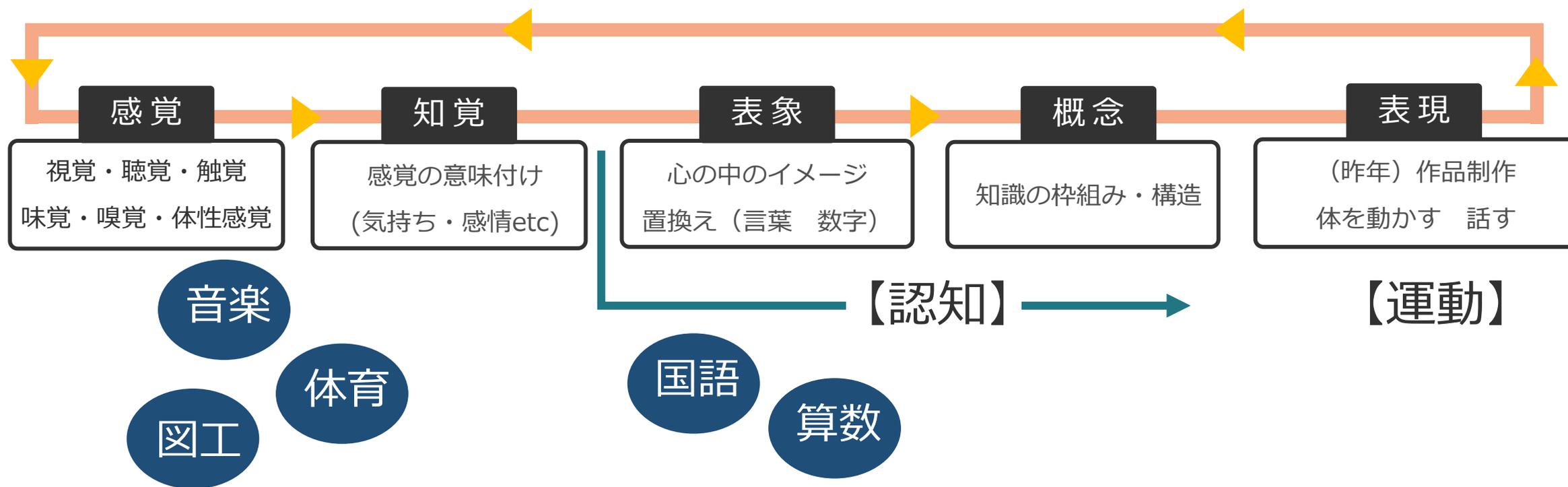
・音・美・体は「生涯学習」という視点からも重要な教科。
それらを充実させることは、子供の内面や生活の充実を図ることにつながる。

・音・美・体での経験が、自己形成や自己実現に寄与する。

仮説

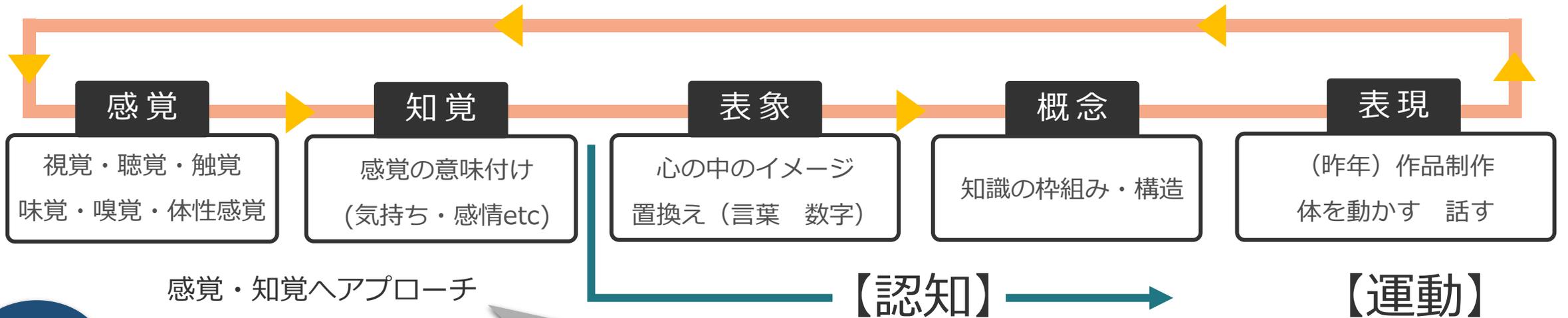
Q どうして 音・美・体 なの？

A 「認知」よりも前の段階にアプローチできるから。



自分の思いをより純粹に、直感的に表現できる ➡ 内面の変化を捉えやすい

Q 1年目の図画工作はどうだったの？



図工 授業 (造形遊び)

屋外 土・草木

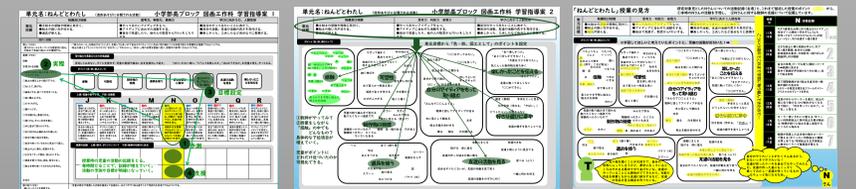
場所・素材準備

広い場所 粘土

素材と関わりながら、
自由に遊ぶ

作品

(残ったもの)



1年次の研究 (小学部・図工) 成果②

1年次の研究 (小学部・図工) 成果①

授業の視点を変えた (作品の完成ではなく、制作過程に着目する) ことで

- ・ 児童が自分のやりたいことができる、**自由度の高い活動** → **授業への意欲up**
- ・ 児童がやりたい感覚刺激の遊びを通して、**感覚・知覚の段階にアプローチ**
感覚・知覚の段階の経験が、その後の認知 (表象等) の段階に効いてくる可能性

Q 1年目の図画工作はどうだったの？

1年次の研究（小学部・図工）成果②

自由度の高い授業を行うための指導案（増えていく指導案）を提案できた。
児童の活動に合わせて目標が後付けされる

単元名：ねんどとわたし (造形あそびに分類される活動) 小学部高ブロック 図画工作科 学習指導案 1

単元目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性等
■土粘土の感触や特徴に気付く。 ■粘土の扱い方が分かる。 ■道具が使えらる。	■自分のやってみたいことに向かう。 ■自分の活動、友達との活動の良さを見付ける。 ■楽しかった、工夫したなど自分なりに表現する。	■自分のやってみたいことに向かう。 ■自分の活動、友達との活動の良さを見付ける。 ■楽しかった、工夫したなど自分なりに表現する。	■自分のやってみたいことに向かう。 ■自分の活動、友達との活動の良さを見付ける。 ■楽しかった、工夫したなど自分なりに表現する。

2 実際

3 目標設定

4 支援

授業時の児童の活動の記録をとる。毎時間ごとで、記録が増えていく。活動の予測や目標が明確になっていく。

単元名：ねんどとわたし (造形あそびに分類される活動) 小学部高ブロック 図画工作科 学習指導案 2

単元目標から「色・形、図工として」のポイントを設定

①教師がやってみて「感触」の中でも「どんなもの？」具体的な下位項目が増えていく。

児童がポイントにどれだけ近づいたかを可視化できる。

「ねんどとわたし」授業の見方

研究対象児としたNさんについての活動記録(右表)と、これまで接近した授業のポイントから、①本時のNさんの活動を予想し、②Nさんに対する教師の支援について記載しています。

単元目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性等
■土粘土の感触や特徴に気付く。 ■粘土の扱い方が分かる。 ■道具が使えらる。	■自分のやってみたいことに向かう。 ■自分の活動、友達との活動の良さを見付ける。 ■楽しかった、工夫したなど自分なりに表現する。	■自分のやってみたいことに向かう。 ■自分の活動、友達との活動の良さを見付ける。 ■楽しかった、工夫したなど自分なりに表現する。	■自分のやってみたいことに向かう。 ■自分の活動、友達との活動の良さを見付ける。 ■楽しかった、工夫したなど自分なりに表現する。

※学習してほしいと考えていたポイントに、児童の活動が近付いた！

このように記録して授業に近づいていくので...

T

Nさん

学んでほしいことと児童の取り組んだことを可視化して整理できる

単元名：ねんどとわたし

(造形あそびに分類される活動)

小学部高ブロック 図画工作科 学習指導案 Ⅰ



単元目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等																																							
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 土粘土の感触や特徴に気付く。 ■ 粘土の扱い方が分かる。 ■ 道具が使える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ やってみたいアイデアをもつ。 ■ アイディアに合わせた活動をする。 ■ 自分で見直したり、他の人の助言からアクションをしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分のやってみたいことに向かう。 ■ 自分の活動、友達との活動の良さを見付ける。 ■ 楽しかった、工夫したなど自分なりに表現する。 																																							
流れ・活動	支援																																									
導入(10分) ・図工のルールとキーワードを教室内に貼る。 ・土粘土で自由に遊ぶことを確認する。	・「図工のルール」を掲示することにより、失敗しても良いので自分のやりたいことに存分に取り組むことを目指す図工の雰囲気を意識できるようにする。 ・粘土を扱う上でヒントになりそうな「おおきい」「やわらかい」「ほそい」等の言葉を壁面に貼り、活動中の参考になるようにする。																																									
展開(75分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>取り組みを見取るための共通認識</p> <p>否定して止めない。すぐに支援せず、児童の意図や面白い点を言語化して返す。 うまくいかない時に、「どうして失敗したか」「次はどうするか」を児童と考え、やってみる。</p> <p>ポイント(色・形、図工として)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">感触</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">可塑性</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">制作物の特徴</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">道具を使う</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">粘土の扱いに集中</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自分のアイデアをもつて取り組む</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">友達との活動を見る</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">楽しかったことを伝える</div> </div> <p>上段：児童の姿や言葉 下段：支援策</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>J</th> <th>K</th> <th>L</th> <th>M</th> <th>N</th> <th>O</th> <th>P</th> <th>Q</th> <th>R</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 静的 感触(水)を好み、自分で楽しむ。教師と関わりが出てきた。粘土だけを扱う時間が最近増えてきた。 </td> <td> 動的 ゴジラを作りたいが、以前上手くいかなかった。あきらめて友達が提案することを一緒にやることが多い。 </td> <td> 静的 教師や友達の言葉を聞き楽しむ。見立て遊びをする。飽きると回転ぶが、最近粘土の時間が増える。 </td> <td> 動的 人との関わりを好み、その手段として粘土を使う。一人でやりたい場面と友達と関わりた場面がある。 </td> <td> 静的 人と関わらず、自分のやりたいことにどんどん取り組む。活動が一段落すると、友達の制作物を見る。 </td> <td> 静的 粘土への興味が薄かった。目を重ね粘土で文字を作る。椅子を使って制作をする等の様子が増えた。 </td> <td> 静的(動的?) 教師の促しに対し素直に取り組む。小さくちぎり、知っているものに見立てる。友達をまねる姿も見られる。 </td> <td> 動的 ダイナミックな活動を好む。始めは水に溶かしたが、粘土へも興味が出て、友達と一緒に制作したがる。 </td> <td> 静的(動的) 手を汚したくない、苦手。友達に誘われ付き合っていたが、徐々に自分の意思を話し、友達と一緒に取り組む。 </td> </tr> <tr> <td> 自分から粘土を扱う場面は大切に、友達の制作にも意識が向くように関わる。 </td> <td> やりたいと話していた内容を促す。挑戦する様子を見せ、参考となるようにする。 </td> <td> 見立て遊びや友達の言葉を使って興味を喚起させ、活動が広がるよう関わる。 </td> <td> 活動に集中している時は一人にし、友達との関わりの中で支援する。 </td> <td> 活動中は言葉掛けをあまりしない。制作物を称賛するなどして友達との関わりを促す。 </td> <td> 文字を用いた活動を肯定し、それ以外の活動も称賛して「粘土の扱い」に促す。 </td> <td> 見立て遊びや友達をまね、自分の気持ちの表出を行った際に称賛し、促していく。 </td> <td> 道具を提案したり、制作の様子を称賛したりして粘土の活動に意識が向くようにする。 </td> <td> やりたいことやアイデアを肯定し、苦手さを考えずどんどん挑戦できるように関わる。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>授業の記録 上段：様子、ポイントについて 下段：教師の仕掛けと反応</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> <tr> <td style="background-color: yellow;">●</td> <td style="background-color: yellow;">●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="background-color: yellow;">●</td> <td style="background-color: yellow;">●</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p style="color: green; font-weight: bold;">授業時の児童の活動の記録をとる。毎時間とることで、記録が増えていく。活動の予測や目標が明確になっていく。</p> </div>			J	K	L	M	N	O	P	Q	R	静的 感触(水)を好み、自分で楽しむ。教師と関わりが出てきた。粘土だけを扱う時間が最近増えてきた。	動的 ゴジラを作りたいが、以前上手くいかなかった。あきらめて友達が提案することを一緒にやることが多い。	静的 教師や友達の言葉を聞き楽しむ。見立て遊びをする。飽きると回転ぶが、最近粘土の時間が増える。	動的 人との関わりを好み、その手段として粘土を使う。一人でやりたい場面と友達と関わりた場面がある。	静的 人と関わらず、自分のやりたいことにどんどん取り組む。活動が一段落すると、友達の制作物を見る。	静的 粘土への興味が薄かった。目を重ね粘土で文字を作る。椅子を使って制作をする等の様子が増えた。	静的(動的?) 教師の促しに対し素直に取り組む。小さくちぎり、知っているものに見立てる。友達をまねる姿も見られる。	動的 ダイナミックな活動を好む。始めは水に溶かしたが、粘土へも興味が出て、友達と一緒に制作したがる。	静的(動的) 手を汚したくない、苦手。友達に誘われ付き合っていたが、徐々に自分の意思を話し、友達と一緒に取り組む。	自分から粘土を扱う場面は大切に、友達の制作にも意識が向くように関わる。	やりたいと話していた内容を促す。挑戦する様子を見せ、参考となるようにする。	見立て遊びや友達の言葉を使って興味を喚起させ、活動が広がるよう関わる。	活動に集中している時は一人にし、友達との関わりの中で支援する。	活動中は言葉掛けをあまりしない。制作物を称賛するなどして友達との関わりを促す。	文字を用いた活動を肯定し、それ以外の活動も称賛して「粘土の扱い」に促す。	見立て遊びや友達をまね、自分の気持ちの表出を行った際に称賛し、促していく。	道具を提案したり、制作の様子を称賛したりして粘土の活動に意識が向くようにする。	やりたいことやアイデアを肯定し、苦手さを考えずどんどん挑戦できるように関わる。					●	●			●	●		
J	K	L	M	N	O	P	Q	R																																		
静的 感触(水)を好み、自分で楽しむ。教師と関わりが出てきた。粘土だけを扱う時間が最近増えてきた。	動的 ゴジラを作りたいが、以前上手くいかなかった。あきらめて友達が提案することを一緒にやることが多い。	静的 教師や友達の言葉を聞き楽しむ。見立て遊びをする。飽きると回転ぶが、最近粘土の時間が増える。	動的 人との関わりを好み、その手段として粘土を使う。一人でやりたい場面と友達と関わりた場面がある。	静的 人と関わらず、自分のやりたいことにどんどん取り組む。活動が一段落すると、友達の制作物を見る。	静的 粘土への興味が薄かった。目を重ね粘土で文字を作る。椅子を使って制作をする等の様子が増えた。	静的(動的?) 教師の促しに対し素直に取り組む。小さくちぎり、知っているものに見立てる。友達をまねる姿も見られる。	動的 ダイナミックな活動を好む。始めは水に溶かしたが、粘土へも興味が出て、友達と一緒に制作したがる。	静的(動的) 手を汚したくない、苦手。友達に誘われ付き合っていたが、徐々に自分の意思を話し、友達と一緒に取り組む。																																		
自分から粘土を扱う場面は大切に、友達の制作にも意識が向くように関わる。	やりたいと話していた内容を促す。挑戦する様子を見せ、参考となるようにする。	見立て遊びや友達の言葉を使って興味を喚起させ、活動が広がるよう関わる。	活動に集中している時は一人にし、友達との関わりの中で支援する。	活動中は言葉掛けをあまりしない。制作物を称賛するなどして友達との関わりを促す。	文字を用いた活動を肯定し、それ以外の活動も称賛して「粘土の扱い」に促す。	見立て遊びや友達をまね、自分の気持ちの表出を行った際に称賛し、促していく。	道具を提案したり、制作の様子を称賛したりして粘土の活動に意識が向くようにする。	やりたいことやアイデアを肯定し、苦手さを考えずどんどん挑戦できるように関わる。																																		
●	●																																									
●	●																																									
片付け 振り返り(5分) ・楽しかったことを発表する。	・児童の様子や発表した内容を補足して言語化し、分かりやすく伝え直すことで気持ちを共有できるようにする。																																									

2 実際

3 目標設定

1 予測

4 支援



	知識及び技能	思考力 判断力 表現力	学びに向かう人間性等
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ■土粘土の感触や特徴に気付く。 ■粘土の扱い方が分かる。 ■道具が使える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■やってみたいアイデアをもつ。 ■アイデアに合わせた活動をする。 ■自分で見直したり、他の人の助言からアクションをしたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分のやってみたいことに向かう。 ■自分の活動、友達の活動の良さを見付ける。 ■楽しかった、工夫したなど自分なりに表現する。

ポイント(色・形、図工として)

単元目標から「色・形、図工として」のポイントを設定

感触

べちよべちよ べたべた
ぐにゃ くつつく
爪 固い
腕 手のひらで押す
指(押す、こそげ取る) ポロポロ
脚 足
足裏(踏む) つるつる
つまむ にぎる 冷たい
水で柔らかく
柔らかさを予想し粘土に
触る力を加減

可塑性

ちぎって細かく 叩き付ける
集めて大きく くっつける
自由だからこそ分からない!
何する?何づくる?
丸める
文字を作る
細く伸ばす
型を押し付ける
水で柔らかく→形変え易い
道具であとを付ける 穴を開ける
ひびがふさがる 乾くと硬く

自分のアイデアをもって取り組む

見立て遊び 「〇〇をやってみよう」
粘土を使い人と関わる 「〇〇を作ろう」
自分から取り組む 何してよいか キョロキョロ
はじっこに行き自分の世界
「みんなで〇〇しようよ」
教師と話してアイデアが出る
水に落として跳ねる 文字
粘土を組み合わせる
乗る 削る 穴を開ける

楽しかったことを伝える

「あー楽しかった」
「あと〇分しかできない!」
「今度はゴジラ作りたい」
気に入った制作物を持ち歩く
「またやりたい」
友達に触ってほしくない
「〇〇ができた」

好きな遊びに夢中

無言(真剣) 手本をじっと見る
引き気味(汚れる、「やばい」)
どうしたらいいか分からない
友達の様子を見てしゃべる

制作物の特徴

児童の取り組み方で変わる
触りたくない→道具で穴
小さい 大きい
みんなで作る
何かに見える(見立て)
消極的→小さいもの? 模様 足・指のあと 穴のあと
積極的→大きい たくさん
ちいさいもある

道具を使う

へら ぼう(割り箸) ローラー
切る あとをつける 突き刺す 表面をならす
穴をあける 型
スプーン 削り取る
水につける バケツ(水)

友達の活動を見る

活動にまじる 友達のまね
投げる 体に塗る 友達と同じように見立てる
友達の作った粘土の島に乗る 食べる(ふり)
自分はやりたくないが、友達の行動を見て笑う
一緒に何かを作る
友達の活動をのぞきに行く

①教師がやってみて
②授業をしながら
「感触」の中でも
どんなもの?
具体的な下位項目が
増えていく。

児童がポイントに
どれだけ近づいた
のか可視化できる。

「ねんどとわたし」授業の見方

研究対象児としたNさんについての活動記録(右表)と、これまで接近した授業のポイントから、
 ①本時のNさんの活動を予想し、 ②Nさんに対する教師の支援について記載しています。



単元目標	知識及び技能	思考力 判断力 表現力	学びに向かう人間性等
	■土粘土の 感触 や特徴に気付く。 ■粘土の扱い方が分かる。 ■ 道具 が使える。	■ やってみしたいアイデア をもつ。 ■アイデアに合わせた活動をする。 ■自分で見直す、助言からアクションする。	■自分の やってみしたいこと に向かう。 ■自分の活動、友達の活動の良さを見付ける。 ■楽しかった、工夫したなど自分なりに表現す

ポイント(色・形、図工として)

※学習してほしいと考えていたポイントに、児童の活動が近付いた! →

腕 べちよべちよ べたべた
ぐにゃ くつつく

指 手のひらで押す 固い
(押す、こそげ取る) ポロポロ つるつる

脚 足

爪 **感触** つまむにぎる

足裏 (踏む) 水で柔らかく

柔らかさを予想し粘土に触る力を加減 冷たい

ちぎって細かく 叩き付ける
集めて大きく くつつける

自由だからこそ分からない!
何する?何つくる? 丸める

ひびがふさがる 文字を作る

可塑性
細く伸ばす 型を押し付ける
水で柔らかく→形変え易い

道具であとを付ける 穴を開ける

乾くと硬く

「〇〇をやってみたい」
見立て遊び 「〇〇を作って」

粘土を使い人と関わる

自分から取り組む 何してよいか キョロキョロ

はじっこに行き自分の世界

自分のアイデアをもって取り組む
「みんなで〇〇しようよ」
教師と話してアイデアが出る

水に落として跳ねる 文字

乗る 削る 穴を開ける

粘土を組み合わせる

「あー楽しかった」
「今度はゴジラ作りたい」
気に入った制作物を持ち歩く

楽しかったことを伝える
「あと〇分しかできない!」
「またやりたい」
友達に触ってほしくない
「〇〇ができた」

無言(真剣)
手本をじっと見る
どうしたらいいか分からない

好きな遊びに夢中
引き気味(汚れる、「やばい」)
友達の様子を見てしゃべる

児童の取り組み方で変わる 触りたくない→道具で穴 消極的→小さいもの?
みんなで作る 積極的→大きい たくさん 小さいもある

制作物の特徴
何かに見える(見立て)

小さい 大きい 模様 足・指のあと 穴のあと

へら 切る 削り取る
ぼう(割り箸) 穴をあける **ローラー** 表面をならす

道具を使う バケツ(水) スプーン

あとをつける 突き刺す 型

活動にまじる 友達のまね
投げる 体に塗る

友達と同じように見立てる
友達の作った粘土の島に乗る 食べる(ふり)

友達の活動を見る
自分はやりたくないが、友達の行動を見て笑う
一緒に何かを作る

友達の活動をのぞきに行く

こういう流れでこれまで学習に取り組んできたので...

授業日	N 活動記録	
11月16日	ちぎり直径3cm球/Jから粘土もらいドア付近で一人棒状→円をずらしうんち何作ってる?→コロコロうんち/くしが欲しい→ない、切り糸渡す→違う様子	1回目
11月29日	大きな粘土に乗り足踏み平らに/爪で引っ掻き模様、自分から活動 前回道具を要求、今回許可→割りばしの側面押し付け模様	2
12月6日	自分の世界/テーブル使う/棒状→ドーナツ→教師に見せる 集中で教師が声を掛けるべきか迷い、近くで粘土制作	3
12月11日	終了間際教師が余り粘土を直方体→教師が離れた後まね Lのケーキ発言を聞き生クリームやメリークリスマスプレートを作る	4
12月20日	道具の中からローラーを選び、粘土の塊に当て続ける/ひび割れがなくなるまで続け、「何を作っているの?」→「石」と答える	5
1月10日	ローラー使いきれいに整える/平べったい四角形粘土に球の粘土を乗せ眺める/時間が経つと粘土を崩し成型するところから始める	6
1月17日	教師が用意した立方体の塊をローラーで整える/平べったい円形粘土に親指を押し当てる/円形粘土を立方体粘土に乗せローラーで接着面を整える	7

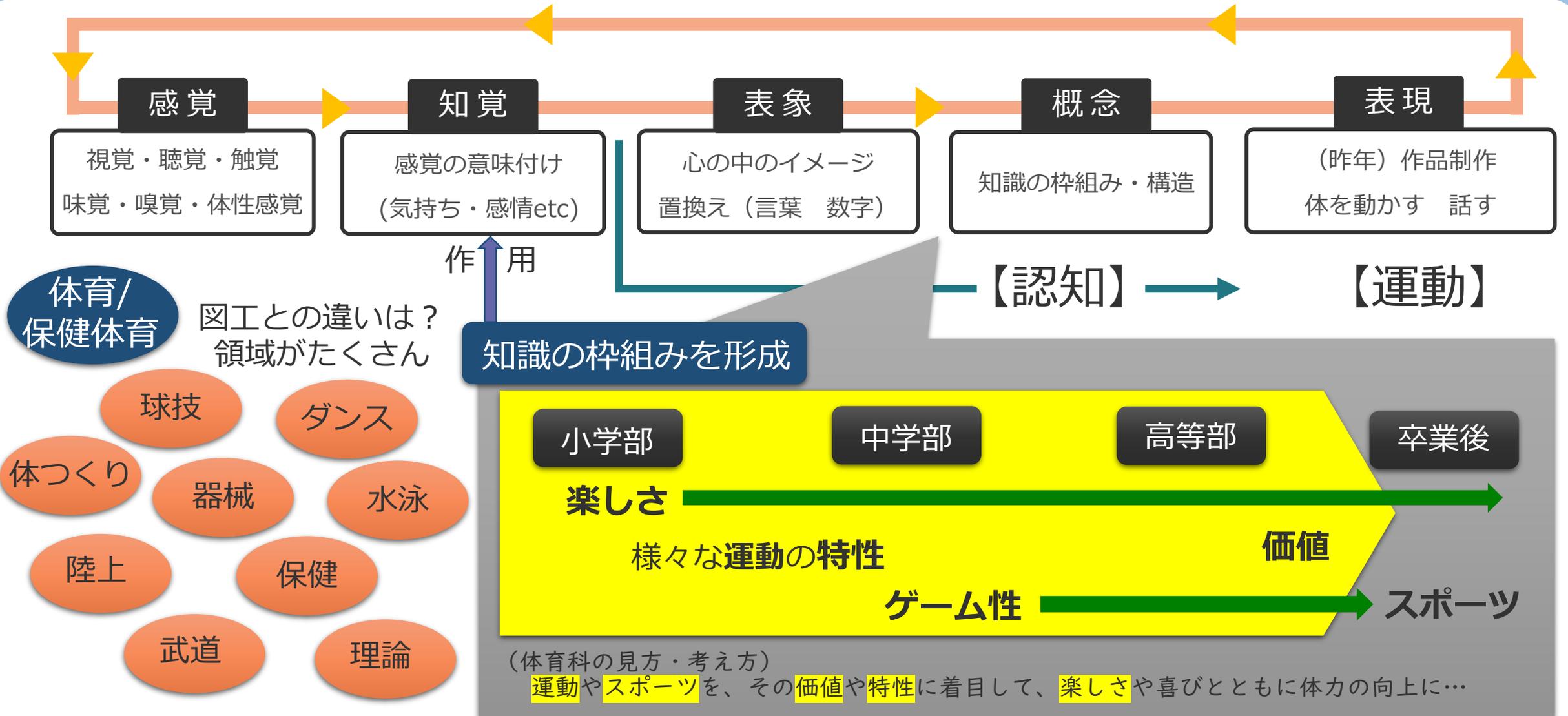


元々絵を描くことが大好きで、自分の世界に入ってしまうけど、夢中になっているところはそのまま集中させてあげたいな。友達のやっていることにも興味が出てきたから、N君の作品を称賛しながら友達に紹介するなど、友達の作品を見る機会を作りたいな。

自分のやりたいことがたくさんあるから、おもいっきりやりたいな!
友達が作ったケーキを自分でもやってみたんだ。友達の作った島にもこっそり乗ってみたし...友達の作っているものもちょっと気になるなあ。

Nさん

2年目の体育/保健体育はどう考えたの？



体育/
保健体育

図工との違いは？
領域がたくさん

- 球技
- ダンス
- 体づくり
- 器械
- 水泳
- 陸上
- 保健
- 武道
- 理論

共通点は？
目指す所は？

- ・魅力的な題材 → やってみたい！ 夢中になっちゃう
- ・一生運動を楽しめる人「運動しようよ」 → 「いいね！」 → 楽しい！くやしい！…またやりたい！
- ・運動に関する 認知的な枠組みを作る → 運動に対する良いイメージが知覚に作用する。

私たちの目指す体育/保健体育を、どう実現するか。



知識の枠組の形成につながるよう、各段階で↓を意識した授業を！



これまでの知的障害児の体育授業づくりが、運動の「できる」や「できない」という二者択一式の発想に陥りやすい危険性をはらんでいる（清野ら, 2017）

こんな授業をしたい！！

「やりたい！」夢中になる魅力的な教材・内容

特別支援学校としての配慮がされている
(安全を担保したうえでの教材・場の設定)

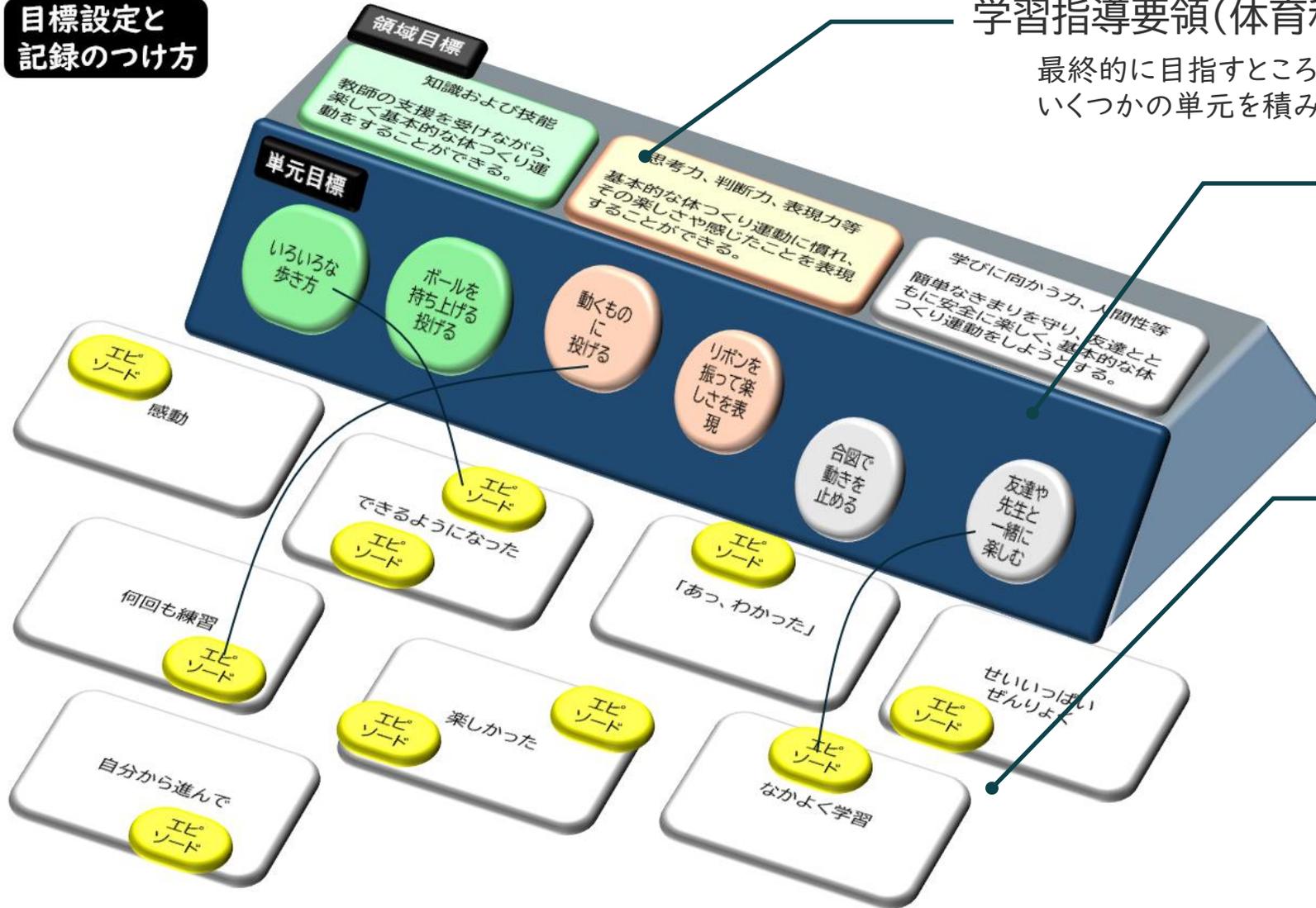
発達段階や認知特性が一人ひとり異なる児童生徒の学習記録や内面の変化が可視化されている

「体育」の授業者として知っておくべき
ポイントが共通理解されている

「体育」の授業者として知っておくべきポイントが共通理解されている

発達段階や認知特性が一人ひとり異なる児童生徒の学習記録や内面の変化が可視化されている

目標設定と記録のつけ方



学習指導要領(体育科)の領域目標

最終的に目指すところ。一つの単元で達成を目指すのではなく、いくつかの単元を積み重ねてこの山の頂上にたどり着くイメージ。

単元目標

領域目標に向かって、今回の単元ではどこまでのレベルを目標にするのかを一言で。山の中腹につくった中継地点(道しるべ)のイメージ。

児童生徒を見取るための視点

体育授業の形成的評価票※長谷川ら(1995)を参考に、小・中・高の各所で必要と思う視点を盛り込み変更して活用。原著では子供たちがこの項目で評価しているくらい具体性があり、子供の姿を想起しやすい視点。

授業中の児童生徒の様子をこの視点で振り返った時に、どんなエピソードがあったのかを記録することで、単元目標に近づいているかどうかを評価する。

発達段階や認知特性が一人ひとり異なる児童生徒の学習記録や内面の変化が可視化されている

領域目標×単元目標×児童の記録(実態として活用)
前ページの立体の図を平面にしたもの。本研究では児童の実態および学習を進めていく際の記録として活用している。

児童Hの学習の様子

単元名:かいじゅうをやっつけろ!

領域目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	教師の支援を受けながら、楽しく基本的な体づくり運動をすることができる。	基本的な体づくり運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現することができる。	簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、基本的な体づくり運動をしようとする。

ポイント(単元で目指すものが中央、本校で大切にしたい観点が周囲)

感動

できるようになった

「あっ、わかった」

せいっぱいぜんりよく
たくさんしっぽを取りたい

大また
いろいろな歩き方
小また

両手
ボールを持ち上げる
投げる
片手

近くに来たら投げる
動くものに投げる
動く先に投げる

リボンを振って
楽しさを表現

合図で動きを止める

友達や先生と一緒に楽しむ

転んでも走って追いかけた
何回も練習

たくさんしっぽがとれた
楽しかった

なかよく学習

自分から進んで

領域目標

単元が含まれる体育科の領域目標。単元を重ねて最終的に目指すところ。

単元目標

領域目標に向かって、今回の単元ではどこまでのレベルを求めるか。エピソードに伴い、「いろいろな歩き方」の中でも、どんな歩き方?などの記録を一言で付けて増やしていく。どんなことを学んでいったのかを可視化する。

児童生徒を見取る視点

この視点で児童の様子を振り返る。エピソードがあれば記入。評価の際に記録として用いることが可能。

「やりたい！」夢中になる
魅力的な教材・内容

「体育」の授業者として知っておくべきポイントが共通理解されている

特別支援学校としての配慮がされている
(安全を担保したうえでの教材・場の設定)

指導案 展開部分

単元名	まほうのくにをぼうけんしよう -体づくり運動・表現運動-	
単元設定の理由		
本時の目標	○ (知・技) ○ (思・判・表) ○ (学・人)	
時間	活動	支援
9:30	・体育館の中に入ったら、自分の意思で自由に体を動かす。	・荷物を所定の場所に置いて安全を確認。

【楽しい】
体育館という広い空間に入ったら、自然と走りたくなる。その気持ちを制限せずに、走りながら自然に活動がスタートするような導入にした。

補足表記(展開右側)

「体育として」留意した点や、特別支援学校の授業として、発達段階を考えて工夫した点を補足として記載する指導案とした。

【楽しい】【体育】【ゲーム性】

【ルール】【価値】【特別支援】

【安全管理】 ……

※工夫が端的に表現できるような小見出しを【 】で記入してから、本文を書く。

協議で一緒にお話しさせていただきたいこと

**Q 体を動かす（運動する）ことに夢中になり、
楽しいと感じる授業にするには？**

教材 場の設定 内容 準備 発達段階・・・様々な要因があると思います。

**Q 障害やそれに伴う特性を踏まえた、
特別支援学校ならではの体育の授業における留意点とは？**

人数 場所 取り組み方の工夫 安全を確保しながら楽しい活動をするには？

Q 体育における児童の内面をどう捉えるのか？

昨年度から用いている「増えていく指導案」はどうか？ 内面をとらえる方法は？